

## 2001年度九州支部発表会の報告

2002年3月7日(木)に長崎市の長崎海洋気象台大会議室で標記発表会を開催した。同発表会は昨年度まで「支部講演会」として開催していたが、実態に合わせて名前を改めることとした。プログラムは次のとおりで15題の発表があり、局地的な現象から地球規模の現象までを対象とした解析や数値シミュレーション等多彩な内容であった。また、気象研究所予報研究部第一研究室吉崎正憲室長、加藤輝之主任研究官及び永戸久喜研究官が「メソ対流系の構造と発生・発達メカニズムの解明」の研究に関する特別講演を行った。席上、今年度新たに設置した九州支部奨励賞の受賞者に対して、賞状と記念品を贈呈した。この賞が会員による気象学の研究、気象学を応用した活動及び気象学の教育・普及活動の励みになれば幸いである。今回の発表会には大学の学部学生・院生から防災機関及び民間企業の職員まで多くの参加があり、参加者は68名に及んだ。次回の発表会もより多くの会員による幅広い分野の発表を期待したい。

## 2001年度九州支部発表会プログラム

1. 長崎における2001年春の黄砂現象  
荒生公雄, 伊東和博, 古謝 愛(長崎大学・環境), 青木一真(北海道大学低温研究所), 清水 厚, 松井一郎, 杉本伸夫(国立環境研究所)
2. 2001年6月23日佐世保豪雨と7月12日諫早・国見豪雨について  
矢野兼三(長崎海洋気象台)
3. 長崎県南部地方における地形性降雨の解析—2001年7月12日の事例—  
荒生公雄, 松原卓美(長崎大学・環境)
4. 2001年10月16日に宮崎県北部と南部で発生した大雨  
相川百合, 諸岡浩子, 金崎 厚(福岡管区気象台)
5. WMO-01期間中に新潟県上越地方沿岸で観測された降雪バンドの発達過程  
田中達也, 川野哲也(九州大学・理), 吉崎正憲, 加藤輝之, 永戸久喜, 田中恵信(気象研究所), WMO-01観測グループ
6. 転向における台風と環境場の相互作用  
内村健司, 伊藤久徳(九州大学・理)
7. 金星大気大循環モデルの開発  
川野 元(九州大学・総合理工), 和方吉信(九州大学応用力学研究所)
8. 赤道域半年周期振動(SAO)の年々変動について  
吉田祥子, 三好勉信, 廣岡俊彦(九州大学・理)
9. 成層圏突然昇温の観測的特徴  
森 明子, 廣岡俊彦(九州大学・理)
10. 南半球オゾンクロワッサンの生成機構について  
伊豆野友美, 廣岡俊彦(九州大学・理)
11. 海面水温により駆動した大気大循環モデルに見られる数年および数十年スケール変動について  
和智崇晃(九州大学・総合理工), 和方吉信(九州大学応用力学研究所)
12. 東風の時に、鹿児島空港付近で発生する激しい乱気流のシミュレーション—NHM(気象庁・気象研究所非静力学メソスケールモデル) 統合環境ソフトを用いて—  
用貝敏郎(鹿児島航空測候所)
13. 八代海・有明海沿岸部の局地気候  
大河内康正(八代工業高等専門学校)
14. 福江島における風速強化に関する数値実験  
土山博昭(福江測候所)
15. 冬季の九州地域における50mメッシュ気温の推定手法について  
高山 成(鳥取大学・農), 早川誠而(山口大学・農), 小野本敏(気象協会九州支社)

## 特別講演

「梅雨期の東シナ海・九州および冬季の日本海における観測的研究」

気象研究所予報研究部第一研究室 吉崎正憲室長  
「X-BAIU-01期間中に観測された降雨の予測失敗例とその原因—非静力学モデルによる降雨予測の今後の展望—」

気象研究所予報研究部第一研究室

加藤輝之主任研究官

「2001年1月16日に新潟県上越地方沿岸に大雪をもたらした降雪システムの数値シミュレーション」

気象研究所予報研究部第一研究室

永戸久喜研究官